

平成31年度 行政評価事業別シート

	<input type="checkbox"/>	実計対象	<input type="checkbox"/>	評価対象	<input checked="" type="checkbox"/>	新規	<input type="checkbox"/>	完了事業	<input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業	<input type="checkbox"/>	担当者	千葉
		全体計画						経費区分		-		内線	3645
事務事業名	12178 親子通園事業												
所 属	300200 教育委員会事務局・子ども課												
施 策	02020900 子育て環境の充実												
予算 科目	会計	01 一般会計											
	科目	030208 民生費・児童福祉費・親子通園施設費											
	事業	020000 親子通園事業											
事業目的						事業概要・効果							
心身に障がいのある児童や発達に支援を必要とする児童が、保護者とともに通園し、機能訓練及び生活指導を通して生活に必要な力を向上させる。また、その保護者に対して相談に応じる等の支援を行い、総合的に児童の育成支援を図る。						心身に障がいのある児童や発達に支援を必要とする児童の保育、機能訓練及び生活指導を行い育成を促すことができた。							

PLAN-DO

年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用延人数 475人 ・ 訓練の状況 作業療法6回、音楽療法12回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用延人数 638人 ・ 訓練の状況 作業療法7回、音楽療法12回
平成29年度 実績	平成30年度 実績
<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用延人数 496人 ・ 訓練の状況 作業療法12回、音楽療法12回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 利用延人数 508人 ・ 訓練の状況 作業療法12回、音楽療法12回
平成31年度 予定	令和2年度 予定
機能訓練、生活指導、保護者支援	機能訓練、生活指導、保護者支援

指標名	無し					
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成30年度 決 算	平成31年度 予 算
事業費		5,027	5,183
特定財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	0	0
	地方債	0	0
	その他	0	0
一般財源		5,027	5,183
人員数(人)	正規職員	2.2	0.3
	嘱託職員	0.9	1.0
	臨時職員	0.9	0.9
人員コスト	正規職員	15,730.0	2,145.0
	嘱託職員	2,587.5	2,875.0
	臨時職員	1,120.5	1,120.5
	計	19,438.0	6,140.5
市民一人当たりの経費		0.5	0.2
総額		24,465.0	11,323.5

(単位：千円)

平成30年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	120	音楽療法士謝礼120
11節 需用費	107	くれよん教室教材用消耗品94、食用費10、医療材料費3
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	4,800	嘱託医報酬等2,447、電話料39、保険料等37、賃金1,646

(単位：千円)

平成31年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	120	音楽療法士謝礼120
11節 需用費	104	くれよん教室教材用消耗品91、食糧費10、医療材料費3
13節 委託費	0	
15節 工事請負費	0	
19節 負担金補助及び交付金	0	
その他	4,959	嘱託医報酬等2,529、保育士賃金1,757、電話料42

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	必要不可欠
評価コメント	就学前の身体及び知的、発達障がいのある児童が保護者とともに通園し、機能訓練及び生活指導を通じ、生活に必要な力を向上させる。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	大変有効
評価コメント	支援を必要とする児童の保育、機能訓練、生活指導を行い、育成を促す。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	向上
評価コメント	必要に応じて、関係者会議を開催している。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

心身に障がいのある児童や発達に支援を必要とする児童への機能訓練及び生活指導を行い、児童の育成支援ができた。保護者にとっても、相談支援や情報交換の場となっている。

ACTION

1次評価

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続	次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント		2次評価コメント	
心身に障がいのある児童や、発達に支援を必要とする児童への機能訓練及び生活指導により、児童の育成支援をしていく必要がある。		現行体制を継続	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	